

2024 年度第 1 回研究会

所長 浅川達人

- 開催日時 2024 年 4 月 10 日（水）18:00～20:00
- 開催主体 早稲田大学「地域社会と危機管理研究会」
- 議題 (1)令和 6 年能登半島地震に関する報告
(2)2024 年度の研究計画について
- 開催形式 対面と Zoom のハイフレックス開催
- 開催場所 早稲田大学 26 号館 1101 会議室

Zoom の URL

<https://list-waseda-jp.zoom.us/j/91527071093?pwd=QnVpZU5OME1kSVVVeXVwMCtWd29yUT09>
ミーティング ID: 915 2707 1093
パスコード: 747666

1. 令和 6 年能登半島地震に関する報告

(1)中塚健也氏（石川県戦略広報監）：創造的復興に向けたプランの骨子案について
資料：第 2 回石川県令和 6 年能登半島地震復旧・復興本部会議（2024 年 3 月 28 日）

<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kikaku/r6notohantoujishinfukkouhonbu.html>

(2)野坂真（青森公立大学准教授）：2007 年能登半島地震の経験を踏まえて（仮題）

2. 2024 年度の研究計画について

(1)2023 年度年次活動報告について

<https://www.waseda.jp/inst/cro/institutes-list/institute-for-sustainable-community-and-risk-management/>

(2)2024 年度研究計画

(2-1)これまでの研究概要

- ・プロジェクト研究所の設置期間は 5 年間（地域社会と危機管理研究所：2021 年 4 月～2026 年 3 月）
- ・2021 年 4 月～2024 年 3 月：2019 年度から 5 年間にわたり、科研費基盤研究（A）一般「大規模災害からの復興の地域的最適解に関する総合的研究」（課題番号 19H00613）（研究代表浦野正樹）が給付されており、再設置後のこの研究所の研究テーマとも合致しているため、当面の間は、この科研費研究を精力的に遂行していく。

(2-2)残存期間の研究計画

2021 年度から 2023 年度までは、科研費基盤研究（A）一般「大規模災害からの復興の地域的最適解に関する総合的研究」（課題番号 19H00613）（研究代表：浦野正樹）を遂行することに注力してきた。この研究については、2023 年度までで一旦終了となり、2024 年 3 月現在、研究成果を報告書として取

りまとめているところである。

2024年度からは、科学研究費基盤研究(A)「人口減少社会における格差拡大の進行過程とその社会的帰結に関する研究」(課題番号：24H00157)(研究代表：浅川達人)が交付内定されている。この研究の研究概要は以下のとおりである。

日本の総人口は2008年にピークに達し、その後は人口減少の局面を迎えた。1980年代以降、急速に経済的・社会的格差が拡大してきたが、この格差拡大は個人間・世帯間格差の拡大とともに、地域間格差の拡大と都市空間構造の変化を伴っていた。こうした変化は、大都市の都心部に新たな富裕地域を生み出した。一方、大都市の周辺地域や地方都市では、産業の衰退、産業構造の変化による非正規労働者の増加、極端な高齢化の進行などに関連しながら貧困地域が形成され、このことが今後、多くの社会問題を発生させると予想される。本研究は、東京圏、名古屋圏、京阪神圏の三つの大都市圏を内包する地域を対象に、都市社会学の社会地区分析の方法と階級・社会階層研究の方法を統合することにより、格差拡大の進行過程を都市空間構造と階級・社会階層構造の両面から解明するとともに、これが日本社会に生み出しつつある諸問題の構造を明らかにし、問題解決の基礎を提供しようとするものである。

人口減少社会においては、災害や環境破壊、その他の事件など、社会的な出来事が引き金になって、地域で培ってきたさまざまな関係性が分断され、直接底辺層の格差拡大に繋がることが頻繁に起こる。時間をかけて慢性的におこってくる出来事と急速に変貌する災害などの出来事のあいだには、緩急の差はあれ質的には同質の問題が起こっているとみることができる。したがってこの科研費の研究テーマは、本研究所の研究テーマとも合致しており、本研究所の残存期間についてはこの科研費研究を精力的に遂行していくことにしたい。

- ・浅川科研 A：三大都市圏を内包する地域（北限：茨城県、栃木県、新潟県、南限：兵庫県、和歌山県）
- ・地域社会と危機管理研究所：東日本大震災津波被災地・原発事故被災地、能登半島地震被災地など

(2-3)年間活動計画

4月10日(水) …… 令和6年能登半島地震に関する報告、2024年度の活動計画
5月……………
6月……………
7月……………
8月……………
9月……………
10月……………
11月……………
12月……………

(2-4)能登半島地震に関心を持つ方々（野坂さん紹介）

- ・長田攻一先生（早稲田大学名誉教授、シニア社会学会「災害と地域社会」研究会座長）
- ・轟亮先生（金沢大学教授、野坂の学部時代の恩師、金沢大学にて奥能登の高校生たちへの教育支援活

動に関わっている)

- ・村田晶子先生（人文研「現代の危機と共生社会」研究部門、現地での女性支援に関わる情報が各所から入ってきているようです） ※村田先生は会議の都合との兼ね合いで、遅れて参加となる、あるいは欠席となる可能性があるそうです

その他、田中純一先生（北陸学院大学教授、野坂の学部時代の先輩、奥能登の現地で支援活動を行っている）にもお声かけしてありますが、実際に支援で動かれていますので、返信もできない状況かと思いません。

3. 次回研究会

- 開催日時 2024年5月___日（ ） 18:00～20:00
- 開催主体 早稲田大学「地域社会と危機管理研究会」
- 議題 (1)令和6年能登半島地震に関する報告
(2)_____
- 開催形式 対面とZoomのハイフレックス開催
- 開催場所 早稲田大学26号館_____会議室

ZoomのURL（1年間同じものを使用する予定）

<https://list-waseda-jp.zoom.us/j/91527071093?pwd=QnVpZU5OME1kSVVVeXVwMCtWd29yUT09>

ミーティング ID: 915 2707 1093

パスコード: 747666